

(様式 1 - 5)

新地町 地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業 個票

令和 7 年 1 月 9 日時点

※本様式は 1 - 3, 1 - 4 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	2	事業名	アートの町『新地』創造・アートの魅力発信事業	事業番号	A-2
事業実施主体	新地町	総交付対象事業費	70,372 千円		
既配分額	45,372 千円	当該年度交付対象事業費	25,000 千円		
経費区分ごとの費用					
一 地域の魅力向上・発信事業①情報					
①情報発信事業					
小計 25,000 千円					
i) 風評動向調査					
0 千円					
ii) 体験等企画実施					
25,000 千円					
iii) 情報発信コンテンツ作成					
0 千円					
iv) ポータルサイト構築					
0 千円					
②外部人材活用					
小計 0 千円					
i) 企画立案のための外部人材の活用					
0 千円					
ii) 地域の語り部の育成					
0 千円					
二 関連施設の改修					
地域の魅力発信事業と一体的に行うための関連施設の改修					
0 千円					
風評の払拭に関する目標					
令和 7 年度における宿泊者数 6,095 人 (平成 22 年度 (5,300 人) 比で 15%増加) (町独自調査)					
事業概要					
事業実施主体	新地町				
主な企画内容	新地町ゆかりのアーティスト作品を活用したアートイベントを開催。SNS や CM、雑誌や新聞広告など多様なツールを活用して幅広く情報発信を行い、しんちアートの魅力を体験できるツアーやワークショップを実施。県外からの誘客を促進する。				
主な事業の実施場所	新地町				
事業の実施期間	令和 5 年度～令和 7 年度				
企画内容					
【現状・課題】					
<現状>					
本町においては、東日本大震災からの復興に向けて、常磐自動車道や福島復興道路など首都圏や仙台圏からの交通アクセスが充実する中で、津波被害を受けた沿岸部に施設や公園を整備し、釣りやキャンプが楽しめるアウトドアフィールドを展開している。また、町の顔でもある JR 新地駅前には、445 席のホールを有する文化交流センターが開館し、コンサートやアート展が開催されるなど文化振興の新たな拠点となっている。					
<課題>					
・ 県外ではいまだに福島県浜通りへの風評被害が消え失せない中で、ALPS 処理水の海洋放出が開始され、新たな風評被害を生じさせない取組を継続することが重要である。					
・ 風評払拭のためには、実際に新地町を来訪してもらうことで町の魅力に触れ、現状と安全性を理解してもらうことが最も効果的であるが情報発信力の充実が課題である。デジタル配信を十分に活用し、多種多様な情報を効率的で効果的に広げていく必要がある。					
・ 「齋藤研」「志賀一男」「坂元郁夫」「星茂」など新地町ゆかりの画家たちの素晴らしい作品が数多く町内施設に収蔵されている。また、新地町出身の漫画家「横山孝雄」氏が描いた漫画作品の原画やときわ荘関連資料、アイヌ民族に関する文献や漫画資料など、郷里である駒ヶ嶺地区の旧公民館に多くの資料が収蔵されて					

いる。こうした貴重な文化資源を地域の魅力として全国に発信し、新たな誘客コンテンツとして活用する必要がある。

#### 【課題に対するこれまでの取組と成果等】

##### <課題に対するこれまでの取組>

###### 【令和5年度】

- (1) アートイベントの開催《実施時期：R5.11～12月》
  - ・「新地町ゆかりの画家 志賀一男&坂元郁夫 絵画展」を開催
  - ・一般モニターツアーを実施
- (2) アーティストやインフルエンサーによる新地体験ツアーの実施《実施時期：R5.11月》
  - ・インフルエンサー招聘ツアーを実施

###### 【令和6年度】

- (1) アートのまち「新地」体験モニターツアー事業
  - ・「新地アートの魅力体験モニターツアー」を実施《実施時期：R6.10月》
- (2) 『新地ゆかりの画家 絵画祭』アート発信事業
  - ・「新地町の風土が生んだ4人の絵画展」を開催《実施時期：R6.10月》
  - ・「新地アートの魅力（学生）招聘ツアー」を実施《実施時期：R6.7月》
  - ・アートイベント「shinchi art fes 2024」を開催《実施時期：R6.10月》
- (3) 新地ゆかりの建築家「遠藤新」情報発信事業
  - ・アートイベント「新地ゆかりの建築家 遠藤新展」を開催《実施時期：R6.7月》
- (4) アーティスト&インフルエンサーによる新地体験ファムツアー
  - ・「アーティスト&インフルエンサー新地体験ファムツアー」を実施《実施時期：R6.9月》

##### <これまでの取組における成果>

###### 【成果】

- 「新地」の持つ多彩な魅力を活かして町のイメージを発掘し、SNSの効果的な発信により町の認知拡大をはかったことで、総合的に町の価値を高めることができ、県外誘客につながり宿泊者増に貢献できている。
- インフルエンサーや訴求力のあるアーティストが集結しワーキンググループを立ち上げ、「アートのまち新地」創造に向けて調査・意見交換・提言をし、SNS配信により町の魅力情報を効果的に発信した。
- 一般参加を公募して、絵画展をメインとしたモニターツアーを実施し、県外から実際に町を訪れてもらうことで、豊かで雄大な自然、食のおいしさと安全性、歴史的で伝統的な景観や文化など、アートにとどまらない町の魅力を存分に感じてもらうことができた。仙台からのアクセスの良さを考え、仙台圏のテレビCMやタウン情報誌・SNS等の活用によりモニターを募集した結果、定員を大幅に超える応募があったことや、ツアー参加者によるSNS発信を促進しツアー内容を参加者自ら投稿することで、隣県である本町の魅力がさらに拡散されたことから、仙台圏への情報発信については一定の効果があったと検証できる。
- 絵画展では、アーティストによるギャラリートークを開催しその動画をYouTubeにアップしたところ、インプレッション数は開催期間中に毎年5000回近くに昇った。絵画展終了後もこのアートの取り組みを継続的に視聴できる仕組みづくりが出来たと考えており、「アートのまち新地」の認知拡大につなげることができた。
- SNSを活用した情報発信については、「アートのまち新地創造プロジェクト」の特設サイトを立ち上げ、イベントやツアーの動画配信、画像の掲載、県外からの来訪者に役立つ地域情報の発信をきめ細やかに行なった。
- ファムツアーでは、インフルエンサーや訴求力のあるアーティストたちが新地の現状をさらに深掘りし、新地のポテンシャルを見出すことで、アートなまちづくりに向けた実現性の高い事業などの提案を頂けた。
- 新地ゆかりの建築家遠藤新展を開催し、出身地ならではの展示物や自由学園明日館の協力を得て、遠藤新の人となりを表現した展示を行うことができた。自由学園明日館館長をはじめ、専門家によるギャラリートークも開催し、YouTubeで発信することで、遠藤新がいかに著名な人物であるかを再確認し広く発信できた。
- 宮城県や山形県のデザイン工学部や芸術学部、建築学部などの大学生を対象に「新地アートの魅力招聘ツアー」を実施、約40名の大学生が参加し遠藤新展をメインとして新地まちめぐりを体験した。町の歴史文化を学ぶ新地歴史めぐりや鹿根山の自然体験ハイキング、海釣り公園での釣り体験や東日本大震災の復興拠点

「釣師防災緑地公園」での震災語り部などを体験。食事では、新地の海で採れた「しらす」を山盛りにした新地しらす丼や相馬あおさ汁をふるまった。魅力招聘ツアーから受けたインスピレーションをもとに、学生おのおのが作品創作に取り組み、完成後の作品を展示した「新地アートフェス 2024」を絵画祭のひとつのイベントとして開催した。大学生の強みである発信力を活かしてツアーやアートフェスの様々な場面でSNS発信を促し、新地の魅力が大きく拡散された。

- ・アートイベントへの参加者数 3200人

- ・アートイベント参加者へのアンケート結果では好印象が約9割。

【令和5年度】

絵画展来場者アンケート・モニターツアー参加者アンケート・招聘ツアー参加者アンケート

回答者863人の9割が好印象の回答

【令和6年度】

モニターツアー参加者アンケート・絵画展来場者アンケート・遠藤新展来場者アンケート・学生招聘

ツアー参加者アンケート・ファミツアー参加者アンケート

回答者1,579人の9割が好印象の回答

- ・町の文化資源を新たな誘客コンテンツとして造成したことで新地町の魅力が向上した。SNS運用によってInstagram・Xのリーチ数が「#新地アートの魅力招聘ツアー」で14552リーチ、「#アートのまち「新地」」で20075リーチとなり、アートのまち「新地」を効果的に情報発信することで町の認知度がアップした。県外から来て見て体験することで、町の現況や安全性が理解され、風評払拭を促進できた。

<目標達成状況>

令和6年度における宿泊者数5,700人（平成22年度比で8%増加）（見込み）

#### 【今年度事業における具体的な取組内容】

##### （1）アートのまちめぐりスタンプラリー事業（新規）

- ・実施期間：令和7年9月～10月、（30日間開催予定）
- ・実施体制：新地町、委託事業者
- ・概算費用：19,477千円（事業費+管理費10%）\*1.1
- ・事業概要

##### ○スタンプラリー（30日間開催予定）

新地町内のアートスポットをめぐってデジタルスタンプラリーが楽しめるイベントを実施。新地ゆかりの4人の画家たち「志賀一男」「坂元郁夫」「齋藤研」「星茂」の絵画展示会場のほか、新地ゆかりの漫画家「横山孝雄」企画展示会場、画家のギャラリー、新地ゆかりの建築家「遠藤新」設計のくるめがすりの家、景色のよい町の観光地など、町内においてアートを感じられる場所や施設の計10箇所にラリーポイントを設置する。各ポイントのQRコードにアクセスしてスタンプを獲得し応募ができる仕組みとする。応募者の中から抽選で町特産品を贈呈する。

県外向けに積極的にイベントを告知し、広告はYouTube広告、タウン誌、SNSを活用する。町観光協会と連携し、観光協会のSNSアカウントも活用して告知も行う。

##### ○SNSフォトコンテスト（30日間開催予定）

新地アートを感じる写真をInstagramやXに投稿することでフォトコンに参加できる。応募写真は、基本的に町の観光PRとして活用できる条件とする。開設済みの観海堂アーカイブミュージアムを拡張して掲載し発信していく。審査のうえ入賞者へは町特産品を贈呈する。

○新地ゆかりの4人の画家たちの絵画展（30日間開催予定）

アートのまち『新地』を創造するイベント「新地ゆかりの4人の画家たちの絵画展」新地町文化交流センターにて開催。新地町ゆかりの画家「志賀一男」「坂元郁夫」「齋藤研」「星茂」の4名の作品を100点程度展示する。来場パンフレットとして記念作品集も制作する。展示会場には大型モニターを設置し、画家出演による作品紹介動画を来場者に視聴してもらう。展示作品のキャプションや記念作品集には、QRコードを取り入れて作品をデジタル解説する。映像は公式SNSで発信し、イベントのPRにつなげながら、作品の理解を深めてもらう。

○横山孝雄企画展（30日間開催予定）

新地町出身で日本を代表する漫画家「横山孝雄」企画展を公民館施設にて開催する。漫画作品の原画やときわ荘関連資料、アイヌ民族の文献など、横山孝雄の作品を展示し、漫画を町の文化資源の魅力として発信する。横山孝雄とはどのようなアーティストだったのかがわかる映像を制作し、会場で視聴してもらう。

○東北芸術工科大学学生作品展（30日間開催予定）

「新地アートフェス2024」で東北芸術工科大学の学生が制作したアート作品を、スタンプラリーポイントに展示し、アートの魅力・新地の魅力を高める。

○食の体感イベント（10日間開催予定）

新地町の“食”を体感できるイベントを絵画展会場にて開催。町観光協会や地元事業者等と協力して「食」のブースを出店し、特産品や地元農産物のPRと試食販売を行い、新地町の美味しいものと食の安全安心をPRする。来場者にはSNSで情報発信していただく。

（2）アートのまちめぐりワークショップ事業（新規）

- ・実施期間：令和7年9月～10月（土日開催、別日で4回開催予定）
- ・実施体制：新地町、委託事業者
- ・概算費用：2,692千円（事業費+管理費10%）\*1.1
- ・事業概要

○アートTシャツワークショップ

アートを楽しめる新地アートなTシャツづくり教室を開催。定員20名程度の日帰りワークショップ（一回7時間程度）を計2回開催する。講師には、これまでファムツアーに参加いただいた新地アートワーキンググループのアーティストを採用する。当日は、9時に文化交流センターに集合し、町内をバスで周遊、スタンプラリーポイントを数カ所めぐり、昼食をとってから、作品制作ワークショップを行い、16時終了解散の予定。昼食には、「食のおもてなし」として新地いも煮汁や新地しらす丼などを食べていただき、新地町のアートと食の様々な体験を通して、「新地」の魅力を存分に堪能していただく。ワークショップは全体で7時間程度を想定。

宮城県・山形県・関東圏から、発信力や拡散力の高い方をターゲットに募集し、募集広告はInstagram広告、タウン誌、SNSを活用する。ワークショップの参加者には、町のアートな風景やワークショップの風景などを積極的に投稿していただき町の魅力拡散につなげる。

○縄文アートワークショップ

アートを楽しめる新地縄文アート教室を開催。定員20名程度の日帰りワークショップ（一回7時間程度）を計2回開催する。講師には、町役場の学芸員を採用する。当日は、9時に文化交流センターに集合し、町内をバスで周遊、スタンプラリーポイントを数カ所めぐり、昼食をとってから、作品制作ワークショップを行い、16時終了解散の予定。昼食には、「食のおもてなし」として新地いも煮汁や新地しらす丼などを食べていただき、新地町のアートと食の様々な体験を通して、「新地」の魅力を存分に堪能していただく。ワークショップは全体で7時間程度を想定。

宮城県・山形県・関東圏から、発信力や拡散力の高い方をターゲットに募集し、募集広告は Instagram 広告、タウン誌、SNS を活用する。ワークショップの参加者には、町のアートな風景やワークショップの風景などを積極的に投稿していただき町の魅力拡散につなげる。

### (3) アートのまち『新地』魅力発信招聘ツアー&新地アートサイン制作事業

- ・実施期間：令和7年9月～12月
- ・実施体制：新地町、委託事業者
- ・概算費用：2,831千円（事業費+管理費10%）\*1.1

#### ・事業概要

○宮城県や山形県・関東圏から、デザイン工学部や芸術学部・建築学部の大学生、インフルエンサーや若手アーティスト等を招いて「新地アートの魅力発信招聘ツアー」を実施。絵画展の作品鑑賞に加えて、ワークショップやアクティビティを取り入れる。開催時期は令和7年9月、候補日は27～28日。同日程で一度に30名を招聘する。申込み時には、SNS 発信やフォロー、作品制作を参加条件とする。

○招聘ツアーによってアートのまち「新地」の魅力から受けたインスピレーションをもとに、若者層の豊かな創造性やデザイン性を生かして、可動式で県外でのPRに活用できる「新地アートサイン」の制作ワークショップに取り組む。アートサインについては、移動式のアート文字サインで、架台から外し分解して移動が可能なもの。制作後は、県外での観光物産PRイベント時などに設置や掲示をして活用し、アートがあふれた新地町を大いに発信していく。

○ツアーは1泊2日。1日目は9時に文化交流センター集合、町内をバスで周遊、スタンプラリーポイントを数カ所めぐり、昼食をとってから、新地アートサインのデザイン制作を行う。  
2日目は9時からサイン制作に取り組み、16時には終了解散とする。ツアー参加者には、町のアートな風景やワークショップの作業風景などを積極的に投稿していただき、町の魅力拡散につなげる。



### 【今年度事業における目標】

#### <アウトプット>

- (1) アートのまちめぐりスタンプラリー事業  
デジタルスタンプラリー10箇所&フォトコン 30日間開催、  
絵画展示会及び企画展示会 30日間開催、  
ポスター100枚、SNS 発信10回以上、SNS 広告、情報誌、新聞掲載
- (2) アートのまちめぐりワークショップ事業  
アート系ワークショップを計4回開催、SNS 広告、情報誌掲載1回
- (3) アートのまち『新地』魅力発信招聘ツアー&新地アートサイン制作事業  
1泊2日ツアーを1回、ワークショップ実施

#### <アウトカム>

- (1) アートのまちめぐりスタンプラリー事業、絵画展示会及び企画展示会  
県外集客 計2000名、アンケート回収100%
- (2) アートのまちめぐりワークショップ事業  
ワークショップ参加による県外からの誘客 80人
- (3) アートのまち『新地』魅力発信招聘ツアー&新地アートサイン制作事業  
県外大学生 計30名、アンケート回収100%、移動式新地アートサイン1基

【今年度、事業の実施により得られる効果】

(1) アートのまちめぐりスタンプラリー事業

アートイベント開催により県外から多数の来場者を招くことで、地域活性化と観光需要獲得が図られる。また、来場者の積極的な投稿や充実した町のウェブサイトでアートの魅力を配信することにより、効果的で実効性の高い情報発信につながり、町の認知拡大が期待できる。

(2) アートのまちめぐりワークショップ事業

SNS広告を幅広く展開し、ターゲットとする発信力拡散力の高い世代に町を訪れてもらうことで、豊かで雄大な自然、食のおいしさと安全性、歴史的で伝統的な景観や文化など、アートにとどまらない町の魅力を存分に感じてもらう積極的に投稿していただくことで、実効性の高い情報発信につながる。

(3) アートのまち『新地』魅力発信招聘ツアー&新地アートサイン制作事業

若手アーティストの豊かな創造性やデザイン性を生かして、新地の外でPR活用できる新地らしいアート作品を創りあげていくことで、話題性が高まり、リアル発信素材としての活用が期待できる。